

# 阿南市立小・中学校再編基本計画を策定しました

阿南市教育委員会では、児童生徒の教育環境のさらなる向上を目的として、学校の適正規模や今後の取組方法等の基本的な事項を基本方針とした、「阿南市立小・中学校再編基本計画」を令和5年2月に策定しました。

基本計画では、教育委員会が考える学校の適正規模を示しています。様々な課題に対応するためには一定の規模が必要と考えますが、規模の大小にかかわらず、教育上の効果を最大限生かせるよう教育委員会では取り組んでいます。



## 阿南市立小・中学校再編基本計画の紹介 その①

### ●学校の適正規模

#### ①教育委員会が考える学校の適正規模（学級数）

小学校では、全学年でクラス替えができる12学級以上の学級数を確保することを目指します。中学校では、国は12学級以上の基準を示していますが、全学年でクラス替えができることに加えて、少なくとも免許外指導の解消や同学年に複数教員の配置が可能になる9学級以上の学級数を確保することを目指します。（なお、これらの学級数に特別支援学級は含んでいません。）

#### ・学級数

	阿南市立小・中学校再編基本計画	文部科学省が示す適正規模（公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引）	基本計画が目指す内容
小学校	12学級～18学級 (1学年2～3学級)	12学級～18学級 (1学年2～3学級)	・全学年でクラス替えができる
中学校	9学級～18学級 (1学年3～6学級)	12学級～18学級 (1学年4～6学級)	・全学年でクラス替えができる ・免許外指導の解消が可能になる



写真と本文は直接関係ありません。

#### ②教育委員会が考える学校の適正規模（1学級あたりの児童生徒数）

1学級あたりの児童生徒数については、小・中学校とも20人以上を目指します。現在の学級編制の仕組みでは1学級あたりの児童生徒数の上限は35人となっています。1学年の児童生徒数が35人を超えると1学年に複数の学級が編制できるようになります。例えば1学年の児童生徒数が36人であれば、18人学級を2学級編制することができます。一方で、児童生徒数は年度により増減することもあることから最低基準の18人ではなく余裕のある1学級20人以上の児童生徒を確保できる規模を目指します。

#### 豆知識

#### 「35人学級について」

1学級あたりの児童生徒数の上限は、昭和33年に制定された「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律（義務標準法）」により学級編制の標準として示されています。国では少人数学級を実現するために令和3年3月に約40年ぶりの小学校の学級編制の標準の一律引下げが決まりました。これまでの40人（小学校第1学年35人）が、令和3年度から5年間かけて35人へ段階的に引き下げられます。一方、徳島県では、国に先駆けて平成15年度から段階的に少人数学級編制に取り組み、阿南市では小・中学校共に35人学級が実現しています。

#### ・1学級あたりの児童生徒数

	阿南市立小・中学校再編基本計画
小学校・中学校	20人以上

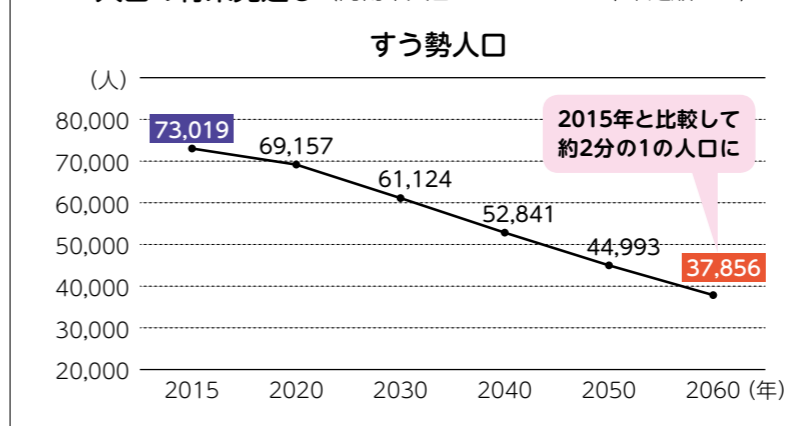
#### ・1学年2学級以上を編制できる児童生徒数

	1学年あたりの児童生徒数
小学校・中学校	36人以上

#### ③適正規模の考え方

再編後の学校規模は将来の人口減少によりさらに縮小する可能性もあることから、阿南市人口ビジョンで示された令和42年（2060年）の将来人口等を参考にすることも必要です。また、過小・小規模校の再編統合では目標とする規模を満たすことができない場合もあります。したがって、過小・小規模校としての再編統合または統合せずに存続する場合は、教育上の効果を最大限生かす方針に取り組み必要があります。

人口の将来見通し（阿南市人口ビジョン2020年策定版から）



すう勢人口とは、今後の戦略的取組を想定しない場合に見込まれる将来人口のことです。人口減少に歯止めをかけるには、質の高い教育を提供すること、住み続けられるまちづくり等、持続可能な社会を目指す戦略的取組が必要です。

今回は、「学校の課題と再編による効果」について紹介する予定です。  
※阿南市立小・中学校再編基本計画については、市ホームページに掲載しています。



問い合わせ 教育総務課 学校再編推進室 ☎22-3299